

大雪山の素顔

だいせつざんのすがお

このコーナーでは、山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員など旭岳で活躍する人たちをリレーして、季節とともに変化する旭岳の旬のお便りをお届けします。

高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」と言われる大雪山の素顔が見えてくることでしょう。



雪の滑り台

わが家の庭に今年も雪の滑り台が登場した。東川に越してからの恒例行事で、除雪した雪を一カ所に集めて作った高さ2メートル程の手づくりの滑り台だ。4歳になる息子のためのものだが、完成するまでの間、息子本人にいく度も破壊されながら完成にいたった汗と涙の結晶である。

操縦桿の付いたソリをスタート位置に置き、息子を座らせ「さあ押すよ?」と声をかけると「自分でできる」と一言。ゆらゆらとソリを揺らせながらやがて斜面をスーッと滑り降りてゆく。昨年の冬には無かった言動に息子のささやかな成長を感じつつ、わずかながら寂しさもよぎる。

気を取り直し自分も滑る。嫌々ながら妻も滑る。息子の2回目は急ハンドルで転げ回る。妻の2回目は嫌がる犬を抱きかかえ転倒しながら滑り降りてゆく。ならばと自分も奮起し、息子を背中に乗せながら空を飛ぶウルトラマンのポーズで滑る。滑り降りた頃は息子ともみくちやになる。馬鹿馬鹿しくも手放しで楽しい。家族で大笑いをする。こんなことが楽しめるのもこのまちの環境ならではの感謝する。

東川の全家庭が庭に雪の滑り台を作ったら「東川は冬になるとあちこちに滑り台が登場するらしいぜ」とウワサされ、滑り比べに観光客が来る...なんてことはないか。

ともあれ、冬まつりに登場する雪や氷の滑り台を一冬遊べるようにしておけば楽しいのに...と思っていたが、新雪が降るたびかなりのメンテナンスが必要であることを管理する当事者になって初めて知った。それでも出来る限り手入れをして、厳しい冬が少しでも楽しくなるように努めたいものだ。

デザインスタジオ・オザキ(西11号北30番地)代表 尾崎満範

短歌

いましばし此のままにてと希ふなり松の白雪まぶしさにあり
特別に相撲ファンでなければも時代の流れひしと感ずる
またひとつ年を重ねて蘭咲きぬ祝いの酒を思らと乾杯
天折の叔母が使ひし編針は八十路となりし吾が許にあり
ゆつたりと氷柱のたるる寒の入り青き空には風花の舞う
羽田まで迎えに来た息子と横浜へ都電の揺れかも心温もる
団魂の世代とあまた騒げども農のゆく道けはしき続く
戦中を共に学びし友集つ又会いましょうと励ましあいぬ
終の日は遠きものにはあらずして雪炎ゆる道羊らはゆく
ななかまどに何時しか根付きし宿り木は強かに見ゆ年古りてなお
ふと過去を思いいだせば涙出るせつなかりけり樂しかりけり
それなりに吾は福耳と思ひみて貶し言葉も流してやりぬ

俳句

春待の陽あたるどころ水走る
鐘の音の丸みおびたり春隣
嬰兒の拳に秘めし春となり
暦では春という日の吹雪かな
追儼の日同胞ふたり見舞いけり
北に住む人皆幸せ春隣
恙なく、戌^{イヌ}旅立てり初昔
耐え抜きていま寒梅の匂い立つ
飢^うしさに命見せあふ寒雀
日脚伸ぶ車庫にも古き掛時計
嚙む口外掘埋めし春となり

秋山 深山
徳光 吐雪
杉山 知りつ
山口 佐知子
石澤 清宏
澤田 久美子
松山 蓉子
小林 露葉
青野 公花
宮坂 紫雲
杉山 ひろのり

瓜生 昭枝
岩田 ふじえ
岡澤 ちず子
松倉 和子
嶋崎 ミエ子
笹田 富士子
矢沢 ますえ
永江 栄子
宮坂 敬子
中田 治子
清水 一子
井山 一文